



消火設備の知識を早く身につけ、総合的な防災提案のできる社員として、会社の成長に貢献したい。

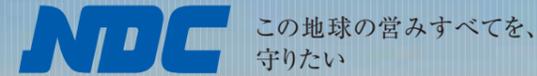
3年前に旧沖電気防災東北支店に入社、ヒューセック時代を経て、今年5月から東京本社に勤務しています。現在は代理店・特約店向けに、自動火災報知設備や消火器・消火設備の営業



入社以来のめまぐるしい環境の変化も「プラスになっている」と前向き。消火設備系の資格取得に向けて、猛勉強中。

を担当しています。部内は情報交換や知識共有が気軽に出来る雰囲気です。防災業界に興味を持ったきっかけは、2011年の東日本大震災です。地元仙台への貢献という意味もあり、「人命や財産を守っている」と思うと、大きなやりがいを感じます。まだまだ商品の手配などに細かな気遣いが足りず、反省ばかりですが、お客様のご要望をいち早く察知して対応できるよう、心がけています。当社は、さまざまな企業との協業や提携などを積極的に進め、「真の総合防災企業」へと着実に発展しています。その中で自分も消火設備の知識を早く身につけ「防災の全てを提案できる営業社員」を目指すことで、会社の成長に貢献したいと思います。

株主通信



【特集】
遠山社長インタビュー
旧ヒューセックとの合併が
もたらした変化と今後の展望

【連載コラム vol.8】
社員が語るNDC
News&Topics

日本ドライケミカル株式会社

証券コード 1909

会社概要

■会社概要 (平成28年9月30日現在)

商号	日本ドライケミカル株式会社 (Nippon Dry-Chemical CO., LTD.)
代表者	代表取締役社長 遠山 榮一
設立	昭和30年4月23日
資本金	700百万円
従業員数	465名/グループ総数716名(平成28年3月末日現在)

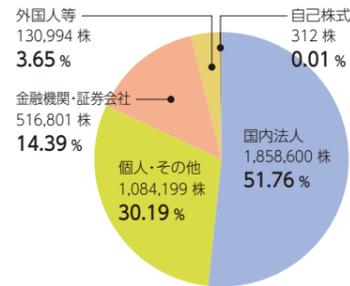
■役員体制 (平成28年9月30日現在)

役員	代表取締役社長	遠山 榮一
	常務取締役	長谷 哲之
	取締役	浅田 裕冲
	取締役	佐藤 寛則
	取締役	高木 進
	社外取締役	櫻井 俊明
	常勤監査役	内村 滋樹
	社外監査役	後出 大
	社外監査役	渡慶次 憲彦

※ 取締役 櫻井俊明は会社法に定める社外取締役です。
※ 監査役 後出大ならびに渡慶次憲彦は会社法に定める社外取締役です。

■株式の状況 (平成28年9月30日現在)

発行可能株式総数	14,000,000株
発行済株式総数	3,590,906株
株主数	3,417名



株主名	所有株数(株)	持株比率(%)
総合警備保障株式会社	550,000	15.32
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	266,400	7.42
株式会社初田製作所	100,000	2.78
日本ドライケミカル取引先持株会	99,900	2.78
新日本空調株式会社	96,000	2.67
沖電気工業株式会社	89,000	2.48
株式会社吉谷機械製作所	80,000	2.23
株式会社東京エネシス	70,000	1.95
堀江 豊	70,000	1.95
KBL EPB S.A. 107704	63,200	1.76

※ 持株比率は自己株式(312株)を控除して計算しております。

株式のご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会: 毎年3月31日 期末配当金: 毎年3月31日 中間配当金: 毎年9月30日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
単元株式数	100株
証券コード	1909
公告の方法	電子公告の方法により、当社ホームページに掲載いたします。 http://www.ndc-group.co.jp/ ただし、事故等やむを得ない事由によって電子公告による公告が行えない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社にてお願いいたします。
- 証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	フリーダイヤル 0120-782-031 (平日9:00~17:00/土日祝除く)

トップメッセージ



代表取締役社長
遠山 榮一

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成29年3月期第2四半期におけるわが国経済は、年初にマイナス金利が導入され、金融緩和策の深堀りが図られたものの、いわゆるアベノミクスに頭打ち感が認識されるようになり、従来の円安・株高のトレンドから、一転して円高・株安のトレンドとなり、企業、個人の景況感はやや弱含んでいるようです。

一方で、英国の国民投票でEU離脱が示されたことで、ヨーロッパのみならず世界経済全体へのマイナス影響が懸念される状況となり、加えて継続しての地政学リスク、新興国経済の下振れリスク等もあり、先行きへの不透明感、警戒感が強く認識される状況となりました。

当社グループの属する防災業界におきましても、民間設備投資は、東京オリンピック・パラリンピックを背景に堅調に推移すると見込まれているものの、公共投資については前年比マイナスが見込まれており、消費税増税の先送りにより前倒し需要惹起が見込まれなくなったこと、一方で国内労働市場の逼迫感は広がってきており、なお、先行きへの懸念は払拭できませんが、政府が打ち出したアベノミ

クスの一環として経済成長を促すための景気刺激策のもと、消費マインドの改善とともに、総需要の底上げによる景気浮揚への期待感

は膨らんでいるようにも見受けられます。このような経済状況のもと、当社グループは、引き続き自動火災報知設備から消火設備、消火器そして消防自動車までをカバーする総合防災企業としての立ち位置を強化しつつ、積極的な営業活動を推進しております。

当社は、平成28年10月1日付で、連結子会社である株式会社ヒューセックと合併いたしました。組織を一体化することで総合防災企業としての立ち位置を強化することを意図したもので、この合併につきましては、特集ページにて、詳しくお伝えしております。

また、当社は平成28年7月1日付で、北海道帯広市において防災設備の工事・点検、防災機器の販売等を行っている株式会社総合防災を子会社化いたしました。北海道エリアでの防災市場の当社シェアの更なる拡大を図ってまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも当社の発展にご期待いただき、引き続きお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

旧ヒューセックとの
合併がもたらした
変化と今後の展望

interview

真の総合防災企業にふさわしい 防災のすべてを 提案できる社員の 育成を目指して

平成28年10月1日、日本ドライケミカルは
ヒューセックと合併いたしました。

平成24年の同社子会社化を経ての今回の合併について、
その目的や今後の展望などを遠山社長に聞きました。

Q まず、今回の合併の目的をお聞かせください。
A 一番の目的は、真の意味での総合防災
企業になるということです。

自火報設備^{*1}メーカーとして長い歴史を有するヒューセックを、消火設備メーカーとして長い歴史を有する日本ドライケミカルが吸収合併することにより、自火報設備と消火設備にかかる技術・知見の融合を目指し、さらに、消火器から消防自動車までを扱う総合防災企業としての位置づけを強化するという狙いがあります。

「総合防災」というからには、自火報設備と消火設備を含めた防災のすべてを提案できる営業が求められます。今回の合併を機に、日本ドライケミカルとヒューセックの社員が互いに競争し、自己研鑽を積んで、幅広い知識を持つ社員に育ててもらいたい、これが最も大切なことだと考えています。

Q 合併に伴って改編された営業組織について教えてください。

A これまで当社が提供する製品・サービスごとに分けていた営業組織を、お客様の層に応じて改編しました。

具体的には、営業第1部はサブコン^{*2}や設計事務所等、営業第2部はビルのメンテナンス会社や施主様等、そして営業第3部が販売店、特約店、商社等となります。この改編によって、お客様に防災のすべてを提案営業することが求められるため、営業担当一人ひとりが、当社が製造し提供しているすべての製品・サービスについて、より広く、より深く知る必要があります。自分はこれしか知らない、というようなことは許されません。お客様の防災に関するすべてのニーズにお応えするという責任を果たしていかなければなりません。



超高度煙検知システムVESDA (豪・Xtralis社製)
火災が拡大する前の微量の煙を検知し、設備の損傷や物的損害などの防止をサポートします。

Q 自火報設備と消火設備を併せ持つ製品についてお聞かせください。

A 新商品のパッケージ型自動消火設備「NEOスプリンクラー-RX」は、日本ドライケミカルと旧ヒューセックの共同開発製品です。

自火報設備とスプリンクラー設備を組み合わせた製品で、有床診療所などに向けて新たに開発された製品です。これらの施設では消火設備の設置義務がないケースも多く、過去の火災事故を受けて、スプリンクラー設備を設置義務化する法改正が平成26年10月に公布され、平成28年4月に施行されました。「NEOスプリンクラー-RX」は、通常のスプリンクラー設備とは異なり、水道水よりも消火能力の高い消火薬剤を使用しており、簡易的な工事で設置が可能です。本製品の設置は国庫補助金の交付対象ともなり、今後の需要の高まりが見込まれます。

コンパクトなパッケージ型自動消火設備「NEOスプリンクラー-RX」。



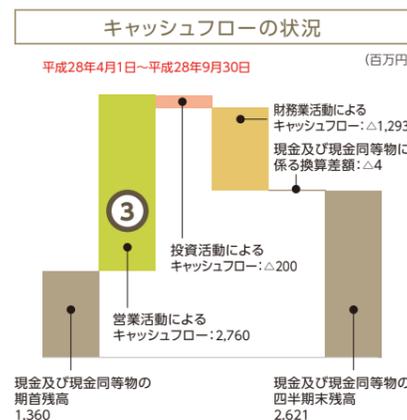
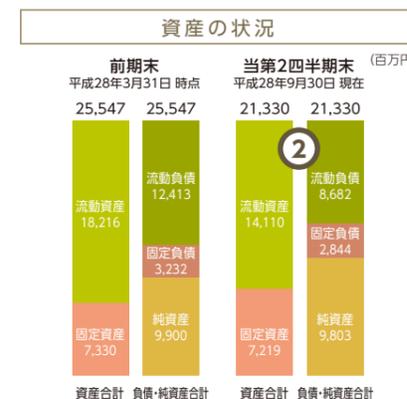
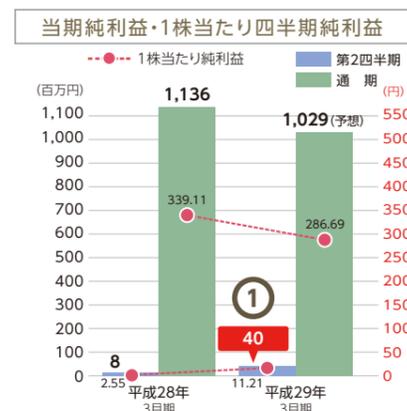
今後も時代の変遷や社会の変容に応じて変化する防災のニーズに対応した製品づくりを進めてまいります。

最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。
当社グループは、今回のヒューセックの合併によって、お客様への防災にかかる提案力を最大化してまいります。

そのためには、社員の質の向上が不可欠です。自己研鑽を促し、全社員が、総合防災企業グループの一員であるとの意識を持つことが企業価値の増大につながるものと考えています。

^{*1} 自動火災報知設備
^{*2} ゼネコンの下請工事を請け負う建設業者

第2四半期累計期間 連結決算概況



News&Topics

全国の市場をカバーする営業体制を確立

北海道の株式会社総合防災をグループ会社化
当社は、平成28年7月1日付で北海道帯広市において防災設備の工事、点検及び防災機器の販売を主業とする株式会社総合防災をグループ会社化いたしました。今後は、株式会社総合防災と当社札幌支店および北海道ドライケミカル株式会社の三者で協力体制を構築し、北海道エリアにおける防災市場ナンバーワンの地位を更に磐石にしております。



IFCAA 2016 大阪国際消防防災展に出展

平成28年6月10日(金)・11日(土)に大阪で開催された「IFCAA 2016 大阪国際消防防災展」に出展いたしました。本展示会は、最新の消防・救助・救急資器材、消防防災システム、防災用品などを国内外の方に広く紹介することを目的として開催され、2日間で約3万人が来場されました。「総合防災の中での新たな挑戦」をコンセプトに、「予防する」「知らせる」「消す」の3つのテーマに分類し、製品の実演展示などを行いました。お立ち寄りいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。



コーポレートカラーのブルーを基調に、どこからでも出入りしやすい開放的なブースレイアウトを採用

株主優待品を一部変更

当社は、平成25年度より株主優待制度を導入しておりますが、本年度から優待品の一部品目を追加および変更し、より充実した内容となりました。



ポイント解説

- 売上高・利益：** 防災設備事業において一部案件の工事完了が翌四半期以降に持ち越されたこと等により、売上高、営業利益および経常利益は前年同期を下回りましたが、税金費用の減少等により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を上回りました。
- 流動資産・流動負債：** 流動資産は現金及び預金の増加、売上債権の減少等により前期末比4,105百万円の減少、流動負債は仕入債務の減少および短期借入金の返済等により同3,731百万円の減少となりました。
- キャッシュ・フロー：** 営業活動によるキャッシュ・フローは売上債権の減少等により2,760百万円の収入となり、フリー・キャッシュフローは2,559百万円となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは借入金の返済等により1,293百万円の支出となりました。